



鈴木 朝英 先生揮毫

事務局 〒069-0854
江別市大麻中町26-19
カルム大麻406
佐々木孝一 気付
011-387-1239

発行責任者
会長 宮崎 隆志

北海道大学教育学部同窓会

学部近況



教育学部研究院長・
教育学院院长・教育学部長
辻 智子

本年4月より教育学部長
(教育学院院长・教育研究
院長)をつとめております、
辻智子と申します。201
3年4月に東京からまいり
まして十余年がたちました。
緑豊かな北大のキャンパス
で若い方々とともに日々を
過ごすことができることを
たいへんありがたく思っ
ております。

さて、教育学部の近況で
すが、まず、本年3月に、
学部生61名、大学院生(修
士課程)44名が卒業・修了
しました。多くの卒業生・
修了生が、新型コロナウイルス
感染症が世界的に拡大
し、それにどのように立ち
向かっていけばよいのか、
これとどう共存していくの
か、地球上の人類が右往左
往していた時期とも言える
2020年4月に入学した

方々で、新たな友人にも会
えず、授業もすべてオンラ
インという予期せぬ学生生
活を長く強いられることと
なりました。特に遠方から
来られた方にとっては孤立
感を深くする新生活の始ま
りだったであろうと想像さ
れ、教員として大学として、
何ができただろう、どうす
ればよかつただろうと思わ
ざるを得ません。従来であ
れば「普通」に経験された
であろう授業やゼミでの闊
達な議論や交流行事がこと
ごとく「中止」「自粛」と
なり、対面で会話を交わし
たことがない、マスクをし
た顔しか互いに知らない、
ゼミのメンバーで一度も懇
親会(飲み会)をしたこと
がない、といった制約の多
い時間を過ごすことが「普
通」になっていきました。

それぞれに悩み苦しんだこ
ともあったとお察しします。
そのような状況を乗り越え
て歩みを進められた皆さん
には、あらためて敬意を表
するとともに、その経験を
何らかの形で各々が自らの
力へとかえていかれるよう
祈らずにはおれません。

教員についてですが、2
名の方が、2023(令和

5)年度末(2024年3
月)に退職なさいました。

浅川和幸氏は、生徒指導論
研究室を担当され、教職課
程の運営や授業に尽力され
てこられました。近年では、
地域探究学習や高校生議会
に関する調査研究に精力的
に取り組まれ、特に北海道
内の各地の実情を踏まえた
若者たちの大人への移行に
関する実態把握を継続して
積み重ね発信してこられま
した。松本伊智朗氏は、教
育福祉論研究室を担当され、
研究者の幅広いネットワー
クを形成しながら貧困や格
差に関する研究を主導され
るとともに教育学部の教員
チームを組織して自治体
(北海道・札幌市)の大規
模な実態調査を展開されま
した。また、英国における
貧困問題をめぐる議論や研
究を、翻訳書刊行などを通
じて精力的に紹介されてこ
られました。お二人の先生
におかれましては、現在、
学外研究員として子ども発
達臨床研究センターの建物
内の一室に机を並べておら
れます。そこでの研究は本
学部の成果の一環としても
位置づけられるものであり、
退職後もこのような形でご

貢献いただいておりますこ
とに感謝申し上げます。

また、松本氏の後任とし
て、広島大学から佐々木宏
氏が着任されました。佐々
木氏は、経済的に厳しい家
庭に育った若者にとって高
等教育の経験がどのような
作用を持っているのか、彼
らにとってどのような意味
を持っているのかを、イン
ドにおける縦断的なファイ
ールド調査をもとに明らかに
されて博士学位を取得され
ておりますが、それは、
本学の大学院在学時に着手
された研究テーマでした。
再び北大に身を置き、北海
道を足場として、さらにど
のように研究を展開されて
いられるのか、期待を込め、
学部としても研究環境を整
備しつつ支えてまいりたい
と思っております。専任教員総勢
34人は、日々の目まぐるし
い業務に追われつつも、自
身の研究に、学生・院生の
教育に、地方自治体や学校
などの教育機関、企業や地
域社会への発信・還元を取
り組んでいます。運営費交
付金の縮減、研究費獲得へ
向けた競争的な環境への誘
導など大学にはさらなる自
助努力が求められておりま

すが、戦争や様々な分断、
経済格差や排除など社会の
課題はより複雑に展開して
いることを鑑みますと、本
学部における諸研究とその
総合としての大学・学部の
存在は、むしろ必要性和重
要性を増しているように思
われます。その責任を自覚
しながら同僚の教員の皆さ
んとともに難局に対峙して
ゆきたいと考えています。
最後に、今年度の新たな
動きに触れておきます。昨
年度、教育学部から国へ要
求した予算が認められ今秋
より子ども発達臨床研究セ
ンターの建物の改修工事が
始まります。2018年の
北海道胆振東部地震の折に
は建物の外壁が剥がれ落ち
るといった事態にも直面し
ておりましたので、このセ
ンターを利用するすべての
人の安全確保の面から優先
的に認められたものと思わ
れます。円安や労働者不足
などから工事の遂行過程に
はやや不確定な面も残って
おりますが、財政状況が厳
しさを増す中で改修工事に
向けて、ここ数年間、セン
ターの関係者やこれまでの
学部長を中心に教員・職員
が計画作成や働きかけを粘

り強く重ねてこられたことが実を結んだものでもありませんので、これを無事に終えられるよう、準備に力をつくしてまいります。

本年9月のホームカミングデーでは、教育学部が主担当となって、公開シンポジウムを企画しております(別途のご案内をご覧ください)。どうぞ皆さま足をお運びください。お待ちしております。

未来を語る場



教育学部同窓会長

宮崎 隆 志

竹田正直前会長からは、昨年の春以後、何度かにわたり連絡を頂き、会長への就任を要請されていたが、その時は即答できなかった。私が携帯電話をあまり使用していなかったため、最後に頂いた電話にもしばらく気づかなかった。留守電に

は、会長の受諾を切に願うと録音されていた。ご逝去の報は出張中に届いた。私からの了解の一言を確認できないままに旅立たれた。大変申し訳なく思う。不誠実とも言える私の対応は、ひとえに同窓会なるもの自らのアイデンティティを見出すことの困難さによっていた。

意識との重なりさえ感じられるかもしれない。このように述べることも、同窓会に誠実に関わって下さっている会員の方々の思いを傷つけるとすれば、予めお詫びしなければならぬ。しかし、形骸化する同窓会にはこのような側面が見出せるように思う。

当事者としての視点からはなかった。竹田前会長の留守電は今も耳から離れない。もとより同窓会は私物ではないし、会長の思念によって性格が規定されるトップダウン組織でもない。少なくとも学部創立以来七五年にわたるかかわりを持ったすべての学生・院生・職員・教員によつて創りあげられた財であることは、帰属意識や共有感覚の強弱はあったとしても間違いない。関係者の誰にも開かれ、誰のものでなく、その輪郭があるようでない財をどう運営すればよいのか―前会長には申し訳ないが、まだ方向性は見えていない。

ウイング・バイ」で加速した人もいれば、突き抜けた人もいるであろうが、その差異はどうでもよい。大切なのは、札幌の地での出来事そのものではなく、その共通項を織り込んだそれぞれの人生物語である。とはいえ、物語は「昔々」から始まり「おしまい」で終わるので、それを語ろうとすれば完結させねばならないように思われるかもしれない。しかし、着地点を見出せない物語は語るに値しないのであろうか？

語を再構成することもある。もちろん、お互いにその作用は生じる。物語の共同の再編集と言つてよい。互いの人生物語を聴きあう場―同窓会はそれだけではないのかもしれない。かつて吉田拓郎は「私は今日まで生きてみました」と歌つた(「今日までそして明日から」)。誰もが人生を模索し、したがって世界と人間を問いつつ生きていく。「生きてみて」見えたことを語り、問い返しあうときに、「明日から」の人生がそれまでとは少し違って見えるかもしれない。だとすれば、同窓会は過去を想起するということよりも、未来を語る場であろう。竹田前会長には、そのような思いで会長を引受けたとお伝えしたい。

学生・院生であった頃の仲間とたまに会うだけなら、わざわざ同窓会という組織を経由する必要はない。出身校に誇りを持つ人達の集まりだとすれば、そのことに自身の価値を求めている人には縁遠い組織として映るであろう。卒業後の活躍に胸を張れる人達が互いの健闘を称え合う場だとすれば、自分にはそんな場に出る資格はないと尻込みする人もいるかもしれない。そもそも在学中の記憶は必ずしも肯定的なものとは限らず、振り返りたくない出来事があつてもおかしくない。それにもかかわらず、宝物のような思い出を共有する者たちの美しいコミュニティとして同窓会が描かれると、排他的なナショナルリズムに連続する類の同郷

私には卒業・修了以来の会員ではあるものの、同窓会に近況を報告することはなく、会合にもあまり参加していなかった。学部生になつた一九八〇年から退職に至るまで、同じ建物・キャンパスに通い続けたため、それらは想起の手がかりというよりも現在の活動が展開する場であり、記憶は毎日上書きされ更新された。同僚や院生・学生と共に教育の現実と日々格闘する現場にいと、その場から時間的・空間的に距離を置く同窓という観点はあまり現れない。学部・大学院の管理運営に関わるようになり、組織のサブイバル(穏当に表現すれば発展)戦略の一環として「アルumnai」を位置づけることはあつたが、自己批判として述べれば、それは同窓会の

しかし、会則の見直しのために事務局・監査、あるいは教員の皆さんと話し合う中で、同窓生の多様な人生物語を聴く機会があつた。それぞれの人生物語は唯一無二であるが、同窓生は、その物語の中に教育学部・教育学研究科・教育学院で過ごしたという出来事を共有している。多様な人生物語はほんの一瞬、人間の可能性を問う「重力場」に引き寄せられ交差した。「ス

未来に開かれる物語は聴き手が必要とする。共通項を持ちながらもその意味づけが異なる他者が聴き手となるときに、私たちは他者の異質な視点から自分の物



▲学位記授与式で祝辞を述べる

「北海道大学教育学部同窓会会則」の改訂案がまとまる

昨年の総会で会則の改正が議題に上り、会則改訂委員会を設置し具体案を検討することになった。委員会では宮崎会長の提案に基づき検討を重ねてきた。その結果、別案のとおりとなったので会員にお知らせする。九月二八日に行われる総会の審議事項となる。会員でご質問ご意見のある場合は、総会の席上、またはメールや同封のハガキ等で事務局まで寄せられたい。

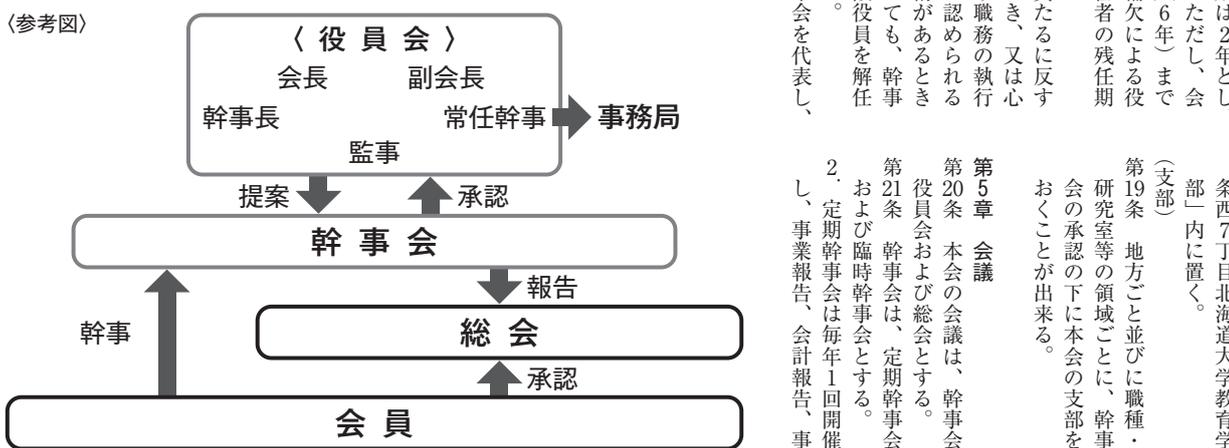
- ・改正の骨子
 - ・幹事会の体制を強化し総会の機能の一部を移行する
 - 会則改訂、役員選考、決算や予算(案)を審議し議決する
 - 会長は幹事互選とする
 - 幹事は原則各年度二名を選任する(うち一名は大学院から)
 - 幹事会での決定事項等は総会に報告する
 - (第八条)(第二〇条)(細則)
 - ・常任幹事の委任
 - 会長は常任幹事(若干名)を指名する

- ・幹事長と常任幹事は会務の遂行を分担の上おこなう
- 常任幹事は会長、副会長とともに役員会を構成する
- (第二三条)(第二四条)
- ・学部/学院との連携強化
- 副会長のうち一名は学部/学院の現職教員を委任する
- 事務局を大学/学院内に置く
- (第一八条)(細則)
- ・会員定義の拡大と支部活動の推進
- 会員の定義を教職員等の出身者全域に拡大する
- 支部の範囲を地域だけでなく職域や年代等任意に結成されるものを含む
- 支部を結成した場合は事務局に報告する
- (第一九条)

- 本会則改訂案は、宮崎隆志(委員長)、佐々木孝二、高山幸一、和田昇、後藤隆之の各委員で作成した。委員会の実施日は別記会務報告のとおりで、杉浦正人がオプザーバーで参加した日がある。骨子の文責は事務局である。

「北海道大学教育学部同窓会会則」(案)

- 北海道大学教育学部同窓会は、同窓生の間での生涯にわたる親睦と学びあいを促進するとともに、同窓生と北海道大学教育学部・大学院教育研究・教育学研究との繋がりを強めることにより、同窓生の活躍と在学生の学習・研究活動を支援することを目的としている。
- 会員諸氏の様々な経験を、同窓生・在学生が北海道大学教育学部・大学院での学びを社会の中で展開していくための資源として共有し、互いの一層の研鑽を図ることを願い、以下の会則を定める。



(参考図)

- を原則とする
- 第4章 組織 (事務局)
- 第18条 本会の事務を処理するため事務局を置く。
- 2. 事務局は「札幌市北区北11条西7丁目北海道大学教育学部」内に置く。
- (支部)
- 第19条 地方ごと並びに職種・研究室等の領域ごとに、幹事会の承認の下に本会の支部をおくことができる。

- 第5章 会議
- 第20条 本会の会議は、幹事会、役員会および総会とする。
- 第21条 幹事会は、定期幹事会および臨時幹事会とする。
- 2. 定期幹事会は毎年1回開催し、事業報告、会計報告、事務局

- 第1章 名称、目的および事業 (名称)
- 第1条 本会は、北海道大学教育学部同窓会と称する。
- (目的)
- 第2条 本会は、会員相互の親睦と研鑽を図り、北海道大学教育学部・大学院教育研究・大学院教育研究の発展に寄与することを目的とする。
- (事業)
- 第3条 本会は、その目的を達成するために次に掲げる事業を行う。
- (1) 研究会、講演会等研鑽のための行事
- (2) 各種会合等親睦のための行事
- (3) 会誌等の発行
- (4) 会員名簿の管理・発行
- (5) ホームページ等を通じての、会員への情報の提供
- (6) その他必要な事業
- 第4条 本会の事業年度は、4月1日から翌年の3月31日までとする。

- 第2章 会員
- 第5条 本会は、次の会員を

- 第3章 役員
- 第8条 本会に次の役員をおく。
- ア 会長 1名
- イ 副会長 若干名
- ウ 幹事長 1名
- エ 幹事 各年度から2名

- 業計画案、予算案、役員人事、会則改訂などについて審議・決定する。
- 3. 幹事会の決定事項は、総会において報告する。
- 4. 臨時幹事会は、次の場合に会長が召集する。
 - ア 会長が必要と認めるとき
 - イ 幹事会が必要と認めるとき
 - ウ 監事から請求があったとき
 - エ 5分の1以上の正会員から審議事項を示して開催請求があったとき
- 5. 幹事会は幹事の $\frac{1}{2}$ 以上の出席をもって成立する。
- 第22条 幹事会の議長は会長または幹事長とする。
- 2. 幹事会の議事は、出席者の3分の2以上をもって決する。
- 第23条 役員会は、会長、副会長、幹事長および常任幹事、監事をもって構成し、会務を処理する。
- 第24条 役員会は会長が招集し、幹事会に提案する議題について審議決定する。また、会則によって幹事会の議決を必要とするときと定めた事項以外の重要事項を審議決定する。
- 2. 役員会の議決には出席者の過半数の同意を必要とする。可否同数のときは会長が決する。
- 3. 前項の規定にかかわらず、緊急又は軽微な事項については、書面又は口頭により賛否を求め、幹事会構成員の過半数をもって決することが出来る。
- 第25条 総会の開催は、北海道大学教育学部が創立記念式典等の記念行事の開催に合せ、同学部と協議の上で、幹事会で決定する。
- 第26条 本会則に規定するもののほか、本会の運営に必要な事項は会長が役員会に諮って決定する。

役員選出細則(案)

- 第1条 幹事は、各年度から2名を上限として選出された会員、または会長が推薦し役員会で承認された10名以下の会員で、幹事会において承認された者とする。
- 2. 各年度から選出される幹事は、学部出身者・大学院出身者各々1名とする。
- 第2条 会長は、幹事会において、幹事の互選により選任する。
- 第3条 副会長および幹事長は、

- 第6章 会計
- 第27条 本会の資産は、会員からの年会費、寄付金、役員会によって承認された事業の収入および寄付行為等による物件などをもってあてゑる。
- 第28条 本会の収入及び支出はすべて予算に計上して行ふ。
- 第29条 本会の会計年度は4月1日から翌年の3月31日までとする。

トピックス・同窓会&キャンパス



▲ 2023 年度 教育学部同窓会総会総会参加者

からご挨拶をいただき、この間に物故された会員に黙祷を捧げました。

つづいて議長に井上蓉子(第一〇期)さんを選出し、議案を審議しました。

二〇二二年(令和四年)度の会務報告、会計報告、監査報告を原案通り承認しました。出席者から会費の納入が会員の一五割ほどであることへの対策と居所不明者の把握について質問が出され、活発な議論がたかかわされました。同窓会のあり方についても、会員有志の討議についても提案がありました。

次に二〇二三年(令和五年)度の事業計画(案)、予算(案)が審議され、いずれも原案承認となりました。ただ事業の円滑な遂行のためには財政的な裏付けが不可欠で、現況はその状況に達していないことも出席者の共通の認識となりま

した。役員改選については、竹田会長から辞任の申し出があり、これを承認しました。後任には宮崎隆志(三〇期)さんが推薦され、同氏は同窓会組織の抜本の見直しとそのため会則改訂を条件に就任を承諾されました。総会では、会則改訂委員会を設置することとし、これを含めて新役員を承認しました。

教育学部・教育学院学位記授与式

二〇二三年度の学位記授与式は、二〇二四年三月二十五日、午後一時三〇分から

同窓会総会/宮崎隆志新会長を選出

二〇二三年度の教育学部同窓会総会は、九月三〇日午後四時三〇分から、文系共同講義棟(軍艦講堂)で行われました。一五名の会員が参加し、学部・学院から横井敏郎学部長(学院

長)と社会連携委員会から柚木孝敬教授(委員長)丸山美貴子准教授が来賓として臨席されました。

竹田正直会長は病気のため欠席となりました。

多米豊元会長が元気な姿を見せられました。冒頭、来賓の横井学部長



▲横井学院長/学部長から学位記を受ける

150th
HOKKAIDO UNIVERSITY

創基150周年カウントダウンイベント
北海道大学ホームカミングデー2024 公開シンポジウム

いじめに無関心で いられない人たちへ

いじめがもたらすダメージはとて大きく、根深いです。そして当事者だけでなく、時間や空間を共にする周りの人たちにも、強いダメージを与えます。だからこそ、いじめを止めたいと思う反面、行動することで被害が悪化したら、さらには自分に被害が生じたらと、躊躇してしまいます。

いじめを前にしたとき、私たちはいったい何ができるのでしょうか。本講演では、発達心理学を専門とし、思春期に非行やいじめ、不登校やひきこもりといった問題が生じる謎について研究されてきた加藤弘通氏を話し手に、社会的マイノリティとされる人たちの悩み・苦しみを、記者として代弁されてきた泉優紀子氏が質問を投げかけます。この対話を通じて、思春期という発達過程でのいじめの特徴と、いじめが深刻化する前に私たち一人ひとりができることを、皆様と一緒に探ってゆきたく思います。

オンラインでも同時配信します。

参加者(来場、オンライン)の事前予約を行います
(申込期間:9月2日(月)~19日(木)17時)。
当日参加も受け付けます。



日時 2024年9月28日(土)
14:00~16:00

会場 人文・社会科学総合教育研究棟
W103教室

定員 200人(事前予約+当日受付)



講演・登壇者紹介

話し手 加藤 弘通 氏

(北海道大学大学院教育学研究院 准教授)



2013年、北海道大学大学院教育学研究院に兼任。専門領域は発達心理学。思春期、問題行動、いじめ、自尊感情、学級の荒れ、規範意識、といったキーワードで示される調査研究を広く実施している。著書に「子どもの発達に気がなったらはじめに読む発達心理・発達相談の本」(加藤弘通・岡田智共著、ナツメ社、2019年)など、多数。北海道新聞に連載中の、小中高生とその保護者に向けた「悩みごとナビ」の執筆者としても活躍。

聞き手 泉 優紀子 氏

(HBC北海道放送 記者 2018年度教育院修士課程修了)



2019年、北海道放送株式会社に入社。以来、報道部に所属し、現在は札幌市政キヤップ。五輪招致など市政取材に向き合う傍ら、教育・福祉・医療に高い関心を寄せ、セクシャルマイノリティなどのテーマも取材。2023年に、ドキュメンタリー「性別は誰が決めるか〜心の生」をみつめて」で、過去1年間の放送の中から優れたテレビ、ラジオ番組等に贈られる、第49回放送文化基金賞ドキュメンタリー部門で最優秀賞を受賞。

主催： 文学部・教育学部・法学部・経済学部

問い合わせ先： 教育学事務部庶務担当

TEL: 011-706-3965 E-mail: shomu[at]edu.hokudai.ac.jp

*[at]を@に変更のうえ、メールをお送りください。(ご連絡等はE-mailでお願いします。)

北海道大学 ホームカミングデー 2024

主催：北海道大学
共催：北海道大学校友会
エルム
日時：2024(令和六年)
9月28日(土)
詳細はホームページで
確認してください

ホームページ

<https://www.hokudai.ac.jp/home2024/>(予定)

文系四学部共同開催 公開シンポジウム

14:00~16:00
会場：人文・社会科学総合教育研究棟

「いじめに無関心で
いられない人たちへ」



▲昨年の案内看板



▲松田直祥さんへの授与

学部学生、大学院生の合同で行われました。学士課程六一名、修士課程四名、博士後期課程三名でした。昨年と同様、対面とオンラインの併用でした。昨年に比べると対面での出席者が増え、晴れ着姿の参加者で華やかな雰囲気となりました。

本会から代表して、宮崎隆志会長が出席しました。会では式のために卓上花を用意しました。

学位記を授与された各位は同窓会へ入会となり、この点について会から文書を配布するとともに口頭でも説明を加えました。

教育貢献賞の授与

学位記授与式の終了後、教育貢献賞授与式が行われ



▲新学年幹事のお二人

毎年卒業生の中から委嘱する学年幹事について、本年度は遠藤天さんと深海貴之さんが選出されました。お二人には事務局から委嘱状を手渡しました。

学年幹事

ました。本年度の受賞者は松田直祥さんと苦米地里香さんになりました。宮崎会長から賞状と副賞が手渡されました。



▲苦米地里香様への授与

前会長・竹田正直さんを偲んで！ 竹田前会長追悼特集

病氣療養中の竹田正直前会長は二〇二三年一〇月一五日、逝去されました。

一〇月一七日に行われた葬儀には、会を代表して、須田力副会長と佐々木孝一幹事長が参列しました。

竹田正直氏略歴



(生年月日) 一九三六年九月一八日

一九五九年三月 北海道大学教育学部卒業
一九六一年三月 北海道大学大学院教育学研究科修士課程修了

一九六五年六月 北海道大学大学院教育学研究科博士課程単位修得退学

一九六五年七月 北海道大学教育学部助手
一九七二年四月 北海道大学教育学部助教授
一九八二年一〇月 北海道大学教育学部教授

一九九一年 北海道大学評議員
(一九九六年三月まで)
一九九四年四月 北海道大学教育学部長・研究科長(一九九六年三月まで)

二〇〇〇年三月 同上 停年により退職
二〇〇二年四月 北海道大学経済学部・教授
二〇〇五年三月 同上 停年により退職

一九九〇年 教育学博士
二〇一〇年―二〇二三年 日本ユースラシア協会会長
一九八〇年―二〇二二年 教育史学会理事
一九九五年―二〇〇四年 日本教育学会理事
(八月二十七日まで)
ロシア教育アカデミー在外会員(逝去まで)

二〇二三年一〇月一五日 逝去

竹田正直前会長のご逝去を悼む



逸見 勝亮 (一九六六年卒)

二〇二三年一〇月一五日、竹田前会長が逝去されました。一九三六年九月一八日に北海道浜益村に生を受け、満八七歳の生涯でした。

お目にかかった最も古い記憶は、一九六一年暮れに催された教育史研究室の忘年会の席(場所は北八条西四丁目中通のおでん屋)でした。教育史にしようと思ったのは、鈴木朝英先生の教育学概説(教育史学)の講義は、苦渋に満ちていて一切の思考過程にあると聞こえたからです。否、斉藤秋男先生の原典講読(北京師範大学『教育学』)の「余談」として宣撫班経験を伺い、卒論はそれと考えるからだったかもしれませ

ん。酒盛りの最後に「ラ・マルセイエーズ」の音頭をとったのが、院生だった竹田さんでした。

以来、六〇年余もの間、学生・院生・同僚・同窓生

として、なにやかやとお世話になった間柄というわけ

です。

竹田さんの研究者としての第一歩は、「プロレタリアートの独裁と過渡期の教育」ソ連邦の労働予備校による近代教育理念超克の過程(一九六一年度修士論文)です。一九六五年に助手に就き、その後研鑽を重ねて一九九〇年三月には「ロシア革命と民主主義教育」を完成して、教育学博士号を取得いたしました(翌年共同文化社から刊行)。

一九九四年四月から二年間、教育学部長の任に就き、二〇〇〇年三月に定年となりました。

竹田さんの取って置きの自慢は、御自身は「経験もなく、実績もなく」(『北大漕艇部五十年史』)と述べていますが、何と云っても北大漕艇部エイト四番漕手であったことです。退職の挨拶でも、「堀内寿郎コー

チのもとで」エイト四番になった。北大が全日本レガッタ優勝を成し遂げた直後で、東北大、東大とともにオリンピック候補と目されていた。『北大時報』(No.552)と誇らしげです。

竹田さんは、会議における参加者の発言をそのまま正確に筆記する才があり、学生の卒論テーマを正確に覚えておりました。寛容で懐が深く、声を荒げたことを目にしたことはありません。欠席がちな学生のアパート・寮を訪ねたり、就職先を世話するなど、そうそう真似ができるものではありません。

漕艇部で鳴らしたがっしりとした広い肩、「正直と書いてショウジキと読みます」と自己紹介する柔和な笑顔が、ヒョイと現われそう

です。

近代五輪の行く末を追う



杉藤 洋志 (一九九四年卒)

こんにちは。身体発達学ゼミで中川功哉先生、須田力先生の指導を受けた杉藤

洋志と申します。入学は一九八八年、理一系でしたが、工学部から途中転学部して

計六年間大学に在籍し、一九九四年が卒業年次になります。

ボート部の杉藤、と言ったほうがおそらく思い出したださる皆さんもいらっしやるのではないかと思います。日本代表選手として、いろんな国際大会で頑張っております。それをとても喜んで頂き、後押しもして下さっていた竹田直直元学部長の計報を受け取った折には、自分の青春時代がついに終わりを告げたような感じがしました。

大学院在学中に、選手としての武者修行と、その後指導者の道に入るときの足しにしようと考えて、当時世界最強と謳われていたカナダに乗り込んで、現地のプロコーチ資格を取得して帰国しました。その後は母校(北大)を含めて、ジュニアから大学、シニア(社会人)、ナショナルチームまで様々なチーム指導を歴任し、現在は主に琵琶湖を拠点として、専属を持たないフリーランスのコーチとして複数のチームの指導やチームコーディネートの仕事に当たっています。

この稿が同窓会誌に掲載

される頃は、パリ五輪の結果がすでに出ているところだと思えます。東京五輪からもう三年が経過したのかと思うと驚く限りです。二〇二一年の東京大会は、二つの立場でオリンピック・パラリンピックを経験しました。ひとつめの立場は、ニュージールランドチームの

ニュージールランドチームという役割でした。平たく言えば、代表クルーがスムーズに大会に臨めるよう、現地(日本のこと)で露払いの役割でした。もうひとつの役割は、大会中にレースをフォローするメディアカーからの解説者としての役割でした。チームの内側から、また外側からの両方の視点を持って、しかもパンデミック下で人の出入りが厳しく規制された大会を目標したことは、それを経験する以前には予想だにできなかったくらいに、自分の人生の中でも大きな位置を占めるものとなりました。この経験を通じて感じたことをここに記したいと思います。

ニュージールランドは五輪大会前から「かなり強いだろう」という評価を得て

いきましたが、開幕してみると予想以上に圧倒的な成績でした。一四種目中五種目で決勝進出、そのうち三種目が金メダル、二種目が銀メダルでした。決勝に五種目進むこと自体が驚異的ですが、さらに驚異的だったのは、その五種目全てで表彰の頂点を争ったことです。その秘密は何なのか、

今もその答えはわかりませんが、ひとつはつきりと言えることは、ニュージールランドチームが斬新なチーム構成をしていたこと、でした。私は他の強豪国スタッフの中でも一定の交流がありましたので、私なりにそれらのチームの構成と較べても、まことに異色の存在だったと言えます。すべてを書くのは紙面が膨大になってしまいますので、一点だけ挙げるとすれば、コーチは単なるチームサポートの一機能にすぎない位置づけだったこと、です。コーチ、選手、専門スタッフ(メディカル、栄養、生理学、バイオメカニクス、私のようなコーディネーターなど)が

対等に意見を戦わせながら一日一日の練習効果を最大にするための最善と思われ

る準備をし、そして、そんな毎日の積み重ねの先に試合でのベストパフォーマンス発揮があり、勝つべくして勝った、ということですよ。他の強豪国が、種目によって大きく出来不出来が分かっていたこと、カリスマ的なコーチに判断の主導権が

集約されていたことと比較して、色濃いコントラストを成していました。ひるがえって、それぞれの個人は、合理的思考を持ちながらそれぞれのパーソナリティは非常に自然体、自然の中で行われるスポーツとしてのRowing(漕艇)を愛する自然児たちでした。

東京五輪のRowingは、ご記憶の向きも多いかと思いますが、海の森水上競技場という、古くは「夢の島」と呼ばれたごみの埋め立て場所近くに海を仕切って出現した水路を利用した人造コースで、整備にかか

る費用、大会後の維持費、が負の遺産になる懸念を大きく取り上げられたコースでした。「夢の島」に「海の森」、なんて、歯が浮くようなネーミング、なぜそんな空虚な名前にしなければならぬか推して知るべ

し、と誰でも思ってしまう地名ですね。Rowingの国際レースは、二〇〇〇メートル直線で、波や流れがないコースで開催されます。自然にそのような条件を備えたコースは、有名などころでは、スイスのルツェルン、スロベニアのブレド、

英国のヘンリー・オン・テムズなど、風光明媚という言葉はこの場所のためにあるのか、というような場所で開催されます。しかし、大都会のまっただなかで毎回開催される五輪会場のすぐそばにそんな場所はなかなかありません。その影響で、最近の五輪Rowing会場はほとんどが人造コースになっています。フェアネスの観点から、そのようなコースをチームも選手も好む傾向はほとんど強くなっています。自然の湖では、風の強さや向きがレーンによって微妙に変わったりして、不公平が生ずる場合がどうしても発生してしまうからです。

水泳も陸上競技も、おそらく原始的な段階では、自然の中にある湖や、原っぱで、「どっちが速いか競争だー」というところから生

まれ出てきたのでしょうか。そしてこんにち、最高峰のスポーツ大会は、完全に人工的な標準化された環境の下で行われるようになりま

した。東京五輪で本格的なムーブメントが顕在化した「アーバンスポーツ」への人間社会の異常と思えるほどの傾倒、そして、いまやSportsという完全に人工的に作り出された環境で競う種目がオリンピックに採用が取りざたされるようになりま

した。話が飛びますが、日本のRowingとしては東京二〇二〇大会が二〇〇五年以来一六年ぶりに開催された本格的な国際試合でした。日本は、大資本がスポンサリングしたり、行政主体で巨大な公共事業に付随する(隠れ蓑?)ハコもの整備をしたり(二〇〇五年の世界選手権はそれでした)、でないとい国際試合すら開催できない国になってしまっ

たことをつくづく感じました。自然のなかで、まさに「自然発生的に」体を動かす者同士が一緒に楽しむことを根源とするのが競争的スポーツであるなら、昨今の「最高峰スポーツ大会」

が志向する傾向は、スポーツの自死ではないか、という危惧を私は強く持っています。それだけに、ニュージラードRowingチームのパフォーマンスの高さ、チーム内のきわめて民主的かつ科学的な構成、ひとりひとりの自然環境に身を置くことを喜びとする姿勢、

ボート競技の裏方として生きる



香川 友歩 (一九九九年卒業)

一九九〇年入学の香川友歩と申します。北大教育学部では中川功哉先生、須田力先生のご指導の下、勉強させていただき、一九九九年に卒業しました。竹田正直元ボート部部长には、私は現役時代に本当に温かく支えていただきましたので、訃報を受けた際は大変ショックを受けました。竹田部長は、学業との両立やお酒を安全に飲む事を常々仰っていました。当時のボート部では留年や荒れる飲み会が当たり前だったので、新しい考えに触れた思

も言えます。その壊れたボートを元通りに修理するのが私の任務です。日本各地のレガッタに赴いて現地修理をする事も多く、全国都道府県制覇まで香川県と高知県を残すのみとなりました。今までに約四〇〇〇艇の修理を手掛けています。私の目標は一〇〇〇艇に到達するまで現役でいることなので、七〇歳までは続けたいです。

オリンピック選手でも競技歴の浅い選手でも、依頼主の顔は当初曇っています。自分の愛艇が傷ついたり折れたりしているのですから無理ありません。そこを完全に元通りに直した時、依頼主は笑顔を取り戻します。その顔を見ることが自分の仕事に対するやり甲斐となつていきます。

ボート競技に勤しむ大多数は学生さんです。普段、私が現場作業で心掛けてい

るのが「笑顔」です。出張先では、なんだかあの人楽しげに働いているな、と見てもらえるよう過ごしています。そのような事も評価されたのか、東京二〇二〇オリンピックでは聖火ランナーにも選出されました。

私は現在、滋賀県にある競技用ボートメーカーに勤務し、メンテナンスを担当しています。選手の皆さんは毎日練習に励んでいます。その最中にボートはよく壊れます。スピードを極限まで追求した艇の造りは頑丈さを犠牲にしていると

当時はオリンピック自体自粛ムードでしたが、持ち前の笑顔で二〇メートル走り抜きました。社会にこれから出て行く人達の中には「働く」事に對し、何らかの不安を抱えている人が少なからずいると思います。私は学生さんの目の前で作業をする機会が多いので、自分が作業しているのを見て、彼らが少しでも「働く」事に対し希望を持ってもらえたら嬉しいです。

ボート競技において、私はいわば裏方です。競技の普及に関わる訳でも、直接

選手との育成に関わる訳でもありません。レース会場でも薦で入部してくる選手なので、ここに素人集団が割って入るのは困難を極めますが、杉藤さんが手掛けるクルーはそこを乗り越えています。私は、ボート競技を追究し没頭する杉藤さん

の熱い背中を追いかけながら大学時代を過ごしました。現在、杉藤さんからコーチングを受けている選手たちも、きつとかつての私と同じく熱い青春時代を送れているのだらうと想像します。

訃報

謹んで哀悼の意を表します

事務局で把握した方々について掲載します
()内は卒業年、敬称は省略します

- ・ 網島 隆(一九五八年卒)札幌市南区 二〇一七年三月逝去
- ・ 佐々木伸浩(一九五五年卒)札幌市中央区 二〇二三年八月逝去
- ・ 八幡 一志(一九五八年卒)北海道小樽市 二〇二三年七月逝去
- ・ 花田 徹夫(一九五六年卒)札幌市東区 二〇二一年九月逝去
- ・ 坪倉 和夫(一九六八年卒)埼玉県上尾市 二〇二一年十一月逝去
- ・ 杉山 素子(二〇〇〇年卒)北海道滝川市 二〇二二年十一月逝去
- ・ 山本 哲二(一九七四年修士修了)札幌市豊平区 二〇二三年四月逝去
- ・ 田尻 博明(一九五八年卒)北海道南幌町 二〇二三年六月逝去
- ・ 大橋 善継(一九六七年卒)北海道七飯町 二〇一七年八月逝去
- ・ 吉田 敏雄(一九五六年卒)札幌市北区 二〇二三年一月逝去
- ・ 竹田 正直(一九五九年学部卒/一九六一年修士修了)札幌市北区 二〇二三年一月逝去(前会長)
- ・ 芳賀 純一(一九六二年卒)札幌市西区 二〇二四年一月逝去

会員短信(二〇二三年九月)

会員各位から送られた近況を掲載します。

到着順になっています。

「氏名」「卒業年次」「現住の都市名等」と記入のコメントの順です。

文字、数字、送り仮名、改行など原則原文のとおりとしました。

#印は振込用紙に記載されたものです。

「掲載不要」との添え書きのあった分については掲載していません。

○亀貝 一義(一九六〇年卒) 札幌市西区

とどろき西五丁目通りを

歩くと北大のあれこれを見ることが出来ます。常に一九五〇年代後半の「わが青春時代」の一端を思いうかべています。

○小島 忍(一九五六年卒) 北海道江別市

二代会長多米さん、副会長橋内さん、同副会長吉田さんのお名前を見て胸を熱くしました。町内会を軸に、ほんの身の廻りとの接触を元気にやっています。皆さんもお元気です!!

○田中 稔久(一九八三年卒) 神戸市灘区

定年退職して九三年が過ぎました。コロナ禍で凍結・中断していた予定を順

一、「同窓会だより」に
会費(寄付金)納入者
を「お礼の形」で紹介

消化し始めているところ
です。時々仕事に行きながら自分の時間を楽しんでいます。

二信)
定年退職後4年目もほぼ終盤、自分のペースで気持ちよく生活しています。コロナ禍の小休止の隙をうかがって、7年ぶりにホームカミングデーに参加しました。ひさしぶりに母校を訪れ恩師、友人、先輩、多くの人に出会い、そのありがたみを感じています。

竹田先生の計報に接し心よりお悔み申しあげます。

○渡会 雅明(一九八九年卒) 北海道函館市

高校保健体育教員三十五年目となりましたが、この数年で、求められる授業スタイルや評価方法などが一気に変革し、自分自身の不勉強もあいまって対応に必死の日々です。この先カウントダウンが進んでいきますが、教員になった時に抱いた「生徒の努力を支援しともに歩んでいく情熱」を失わないよう気を引き締める所存です。

○橋爪 幸正(一九六一年卒) さいたま市北区

昨年7月と12月の2回、腸閉塞となり2週間入院。5kg痩せました。今は一日一万歩、歩いて体調回復につとめています。

○伏木田 政義(一九六九年卒) 北海道函館市

竹田先生が同窓会長を退任されるとのこと
ご苦労様でした。ご自愛ください。

○浅田 正典(一九七九年卒) 大阪府東大阪市

同窓会だより、いつも楽しく、当時の自分、恩師の竹田、逸見先生に叱られた思い出とともに読まさせてもらっています。最後の60才台、地域の活性化や子ども食堂のボランティアもさせてもらい、自身の健康と向上のためといきかしてやっております。

○芳賀 純一(一九六二年卒) 札幌市西区

一人住まいも七年。何とか頑張っています。(二〇二四年一月逝去)

○福田三行(一九六九年卒) 北海道江別市

佐々木事務局長様、同窓会のことほんとうにありがとうございます。

○花田 徹夫(一九五六年卒) 札幌市東区

花田徹夫の妻でございます。実は主人 一昨年の九月

は今でも大切にしております。

ご健康を大切にされ、それぞれの場でご活躍されることを願っております。

大阪から

○田尾 直之(一九六一年卒) 札幌市厚別区

リユウマチのため、歩くことも困難になっている

○小林勇樹(二〇〇七年修士課程修了) 長野県中野市

来年は、子ども・若者参画に関するNPOを設立します。

○川北 隆一(二〇〇三年修士課程修了) 北海道帯広市

青木先生、大変ご無沙汰しております。

お元気で過ごさしめさせていただきます。院在学中は本当にお世話になりました。ゼミの皆さん、元気ですか?

○杉山 敏彦(一九九五年卒) 北海道滝川市

住所変更しました。同窓生である妻、杉山素子(旧姓・中間)、昨年2022年11月に他界しました。私、この4月から通信制の大学生となり、月1~2回の講義を受けております。この年齢になり、初めて楽しいと感じている次第。

○坪倉 和夫(一九六八年卒) 埼玉県上尾市

令和三年 十一月に逝去しました。

○大変失礼致しました。存命中はお世話になりました。妻澄子とうございました。妻澄子

に亡くなりまして、ご報告していたものと思っております。

大変失礼致しました。存

命中はお世話になりました。妻澄子とうございました。妻澄子

に亡くなりまして、ご報告していたものと思っております。

大変失礼致しました。存

命中はお世話になりました。妻澄子とうございました。妻澄子

に亡くなりまして、ご報告していたものと思っております。

大変失礼致しました。存

命中はお世話になりました。妻澄子とうございました。妻澄子

に亡くなりまして、ご報告していたものと思っております。

○山本 哲二(一九七六年卒) 札幌市豊平区

同窓会のご案内をいただきまして

残念ですが、夫山本哲二は今年四月に死去いたしました。

長い間、ありがとうございました。(妻みち代)

○塩崎 世佳(二〇二三年卒業)

住所変更を宜しくお願ひ致します。

○多米 豊(一九五四年卒) 札幌市西区

教育学部卒業後、医学部に進み、以後、小児科の開業医生活を55年4ヶ月続けました。小児心身症を始めましたが途中で止めたのが残念です。

○橋内 哲也(一九五五年卒) 札幌市厚別区

竹田正直氏会長辞任とのこと、永い間ありがとうございました。これからも学術研究の道をお進みのことと思いますが、くれぐれもお体大切にお過ごし下さい。ますますのご発展をお祈り致します。

○浅川 解子(一九八八年卒) 札幌市北区

転居いたしました。今後、左記住所に送って下さい。

夫浅川和幸も同様にして下さい。

○市澤 豊(二〇〇四年博修了) 札幌市南区

離郷六十五年。探訪の旅は、原発事故やコロナ禍で果せなかった。広域県福島は、由来会津・中通り・浜通りの三域があり、漸く2022年に山水名蹟に富む会津エリアを歴訪しました。

2023年には東北本線の走る中通りエリアを巡りました。古歌に詠まれた桜木や古戦場などを景観しました。

2024年は太平洋側の浜通りエリアを希っております。

○愛甲 知佐子(一九九二年卒) 札幌市中央区

子育ても間もなく一段落となりそうです。子らを育てながら、教育とは、学びとは…と自問自答の日々でした。自身に与えられた学びの機会に感謝です。

○小野塚 恒男(一九七八年卒) 新潟市中央区

「だより」をお送りいただきまして、誠にありがとうございます。知っている人が多く、励みになります。大学のキャンパスを思い浮かべながらの30分以上の散歩を日課にしています。

○瀧澤 真毅(一九九〇年学部卒) 一九九四年修士修了) 北海道帯広市

生きています。

○安達 輝政(一九七九年卒) 岡山県吉備中央町

専門農家をやっております。その関係で、JA晴れの国岡山の総代、中山間地集落協定の会計、その他と多忙な毎日です。

○渡部 秀清(一九七二年卒) 東京都杉並区

教員不足が深刻です。教育基本法の改悪をはじめとする諸教育政策(教員に対しては主任制、「日の丸・君が代」の強制、業績評価「勤務評定」ともいいました)、免許更新制、官製研修の強化、自主研修の抑制(これで私は賃金カットをされました)などなどの失敗に他なりません。

2泊か3泊・・・わいわいと。その頃の「羽幌炭坑」、最盛期。島でサフォーク羊の飼育がはじまったのもこの頃、放牧終了とのうわさもあつたがどうやら継続とのこと(道新)・・・4人中2人は他界。そんなことを思い出している今日この頃です。

○高橋 英一(二〇〇一年卒) 東京都豊島区

20年振りに札幌勤務となりました。

変わつたところ、変わらないところ それぞれですが、久々の札幌生活を満喫しています。

○大居 健二(一九五六年卒) 札幌市厚別区

一日の大半は読書です。現在、司馬遼太郎の『竜馬がゆく』を再読中です。九月六日九十歳になりました。人生百年時代、もう少しがんばります。

○細田 孝哉(一九八五年卒) 北海道北広島市

日本、北海道の教育を元気にしよう「まおい学びのさと小学校」がんばっております。

ぜひご支援をお願いいたします。

○生出 典子(一九九八年卒) 札幌市南区

いつもありがとうございます。

○古本 尚樹(二〇〇一年卒) 札幌市中央区

平素事務局活動にご尽力

頂き、誠にありがとうございます。私事ですが、札幌市内で引越しました。マンションは雪の心配いらず、助かります。また、55歳にして、初めて民間企業に就職しました。御縁があり、今は都内で単身赴任中です。これからもよろしくお願ひ申し上げます。

○井上 蓉子(一九六二年卒) 北海道岩見沢市

激しく移り変わる社会と人々に、ひかれ、様々の生きづらさを学んでいます。

○武田 春人(一九七五年卒) 札幌市中央区

札幌で発達障害や肢体不自由の子どもの家族への精神発達相談とともに、市内の保育園や認定こども園の「障がい児保育巡回指導」に従事しています。

○森 範行(一九七二年卒) 札幌市東区

後期高齢者になりました。25年勤めたスクールカウンセラーも引退しました。何もしくなくてもよい自由を得たのですが、何もしないのは思ったより楽じゃないです。

○三村 道丸(一九七八年卒) 北海道共和町

学窓は人々にとつて宝である。

本来人は苦しみや悲しみを抱えて生きていくもので危機的状況がいつでも起こり得る。現代に於て悲しみを慰めてくれる物語りが北大にあり、人が生きる上で必要な時もある。

3月末に転居し、住所が変わりました。

○田尻 博明(一九五八年卒) 北海道南幌町

令和五年六月二十日の父、田尻博明

永眠しました
お世話になりました
ございます。

○林 孝幸(一九九一年卒) 札幌市北区

「同窓会だより」をいつも楽しく読ませていただいております。会員の皆さまのご活躍を期待しています。

○小松 秀樹(一九七九年卒) 川崎市宮前区

竹田先生、長年にわたる同窓会長のお勤め、御苦労様でした。私は今、外国籍の子どもの勉強を見るボランティアをさせて頂いてます。

○後藤 隆之(一九七五年卒) 札幌市東区

満65歳で、株式会社を設立しました。
リフォームと福祉用具と不動産の会社です。私を含め社員6名全員が65歳以上です。リスクリング(学び

直し)の連続ですが、充実しています。

○弘谷 多喜夫(一九六七年卒) 北海道釧路市

転居連絡

○松井 裕保(一九七六年卒) 堺市堺区

北大教育学部を卒業して、早や四十六年を経過しました。法務省を退職して二十年になります。

○大橋 善継(一九六七年卒) 北海道七飯町

同窓会だよりありがとうございます。大橋善継は二〇一七年八月に他界致しました。皆様のご活躍ご健康、お祈り申し上げます。大橋家族

○熊谷 修司(二〇〇四年卒)

転居しました。

○国吉 昌晴(一九六六年卒) 東京都西東京市

長期にわたり同窓会をご指導下さった竹田正直先生に心より感謝申し上げます。これからも私共を見守って下さい。

またお会いできますことを楽しみにしております。

○高山 幸一(一九七四年卒) 札幌市西区

同窓会は多米会長、小島幹事長が残した路線から、竹田会長が新しい次元に高まったと思います。同窓生が国内のみならず世界中で活躍しているのを知りわくわくしております。

○坂本 仁彦(一九七〇年卒) 東京都世田谷区

酷暑の夏は過ぎましたが引き続き暑さは在り、秋遠しの感があります。訪札の機会は仲々巡って参りません。在京の同窓会の開催を待ち望んでおります。宜しくお願い申し上げます。

○須田 力(一九六六年卒) 札幌市東区

「同窓会だより」ありがとうございます。教育学部でヒューマニズムの科学を学び、卒業後それを実践されている方が多いことを感じ取りました。

○村田 仁海(一九六八年卒) 石川県野々市市

2011年11月11日、左記住所に変更になりました。

○忍 博次(一九五四年卒) 北海道江別市

月寒にある老人ホーム「天」に入所いたしました。

○佐藤 修二(一九七九年卒) 札幌市北区

北海道大学近くに住んでいるのに、キャンパスには一年以上、足を踏み入れていません。なんとか散策する時間と気持ちの余裕を持ちたいと思います。

○吉田 敏雄(一九五六年卒) 札幌市北区

九十才になりました。近年は病院と縁を切る事が出来ず、健康生活、健康教育を説いて来た者が透析やリハビリに励んでいるのは、絵になりません。(二〇二三年十月逝去)

○黒川 昭和(一九五五年学部卒) 一九五九年修士修了) 北海道小樽市

お陰様で元気で過ごしております。耳が不自由なのでお電話

等は失礼させて頂いております。

○杉山 昌夫(一九八三年卒) さいたま市桜区

九月三〇日に四十年勤めた会社を無事退職しました。しばらく充電後、新たなステージに移る所存です。

○秋元 義禮(一九七三年卒) 青森県弘前市

入学して、しばらくして教養は全面封鎖された。徐々に授業が再開されても大学に足が向かなかった。いまコロナが5類に移行し、マスクやリモートワークから解放されても、なじめない人たちがいる。

もしかしたら自分もこれと同じ症状ではなかったのでは、と今になって思う。その頃は登校できない自分が、弱いだけだと思っていた。少し自分を許せる気がしている。

○鈴木 日向子(二〇一九年学部卒) 二〇二一年修士修了) 北海道旭川市

二〇二三年四月に転居しました。住所の変更をお願いいたします。

二〇二三年十月逝去)

二〇二三年十月逝去)

二〇二三年十月逝去)

二〇二三年十月逝去)

○伊東 直子(一九七六年卒) 山梨県上野原市

同窓会ご案内のハガキをお借りして、住所表記と郵便番号の変更をご連絡させていただきます。

左記の表記に変更をお願い致します。

同窓会事務局のご尽力に感謝申し上げます。

○逸見 勝亮(一九六六年卒) 札幌市中央区

『たより』受取りました。有難うございました。大学文書館にいます。

定点観測記録によれば会った方々は以下のとおり、

相内佳織、田中稔久、遠藤勝彦、松永武、古島盟夫、杉浦洋志、三井登、三上敦史、塚本智宏、桜井明子、山本美穂子、井上高聡、佐々木孝一、近藤健一郎、和田昇(小生ルス)、小川正人、伊藤英恵、市村猛樹、武藤俊雄、羽田貴史

みなさん北大構内であった方たちです。TVでは、岩塚晃一、戸田博史、向井一弘(声だけ)を拝見。

○水口 勝博(一九九九年学部卒) 二〇〇二年修士修

了) 札幌市中央区

駐在していました南米より帰礼しました。

○牛島 康明(一九七四年卒) 千葉市美浜区

48年間の会社勤務を終え、現在は日本語学校の教師をしております。

○渡邊 沙葉子(二〇〇八年卒) 札幌市中央区

住所が変わりました。変更よろしくお願ひします。

○竹下 忠彦(一九八二年卒) 東京都町田市

10月にゼミの指導教員だった竹田正直先生の逝去のお知らせをいただきました。謹んでお悔やみ申し上げます。私は、特別支援学校で時間講師週二回のペースで続けています。

○山口 晴敬(二〇二四年卒) 札幌市中央区

二〇二四・三・二四に博士学位をいただきました。ようやくですががんばったかがあります。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

会員投稿

卒業後三か月を経て



二〇二四年卒 深海 貴之

この春、教育学部を卒業し、農林水産省で働いています。教育に携わる仕事が出来たと思っていますが、文部科学省とは縁がなく、ダメ元で受けた農林水産省と縁がありました。働き始めて三か月ですが、教育政策と農業政策の違いに驚いています。もちろん、予算に限りがあり、年々削られやすい(増えることはない)傾向にあるというのは似ているのですが...

象にあります(教育行政で横井先生から学びました)。それに対し、農業政策、特に今配属されている農業経営政策は、農業者がどうすれば儲かるか、安定して稼げるかという視点が重要だと感じています。手厚い経済的支援をすればいいわけではなく(農家の所得を補償すべきという考えもありますが)、産業として安定する、稼げるようにするためにどのような施策をするか、どう農業というビジネスを支えるか、という面があると感じています。公教育が市場原理と相性が良くないのに対し、農業経営は市場原理そのまま、政策とのバランスが重要になってきます。と、ここまで分かっている風には書きましたが、本当

は何も分かっておらず、目の前の与えられた業務を何とかこなしている日々です。「仕事の9割は人間関係」と聞いたことはありませんが、職場の人間関係は気を遣うことも多く、なかなか疲れます。そんな中、大学同期の存在は大きいと思います。仕事上の利害に関わらず、いろいろな話をすることが出来る友人は貴重なのだとひしひしと感じます。東京圏に就職した学部同期も何人かいるため、連絡を取り合っています。今はまだ連絡を取るきっかけがあるので飲みに行っていますが、



▲ 5月、新宿にて

投稿募集

同窓会報に会員各位の原稿を募集します。テーマは、「在学中の思い出」「母校と現在の絆」「思うこと/考えたこと」などです。四〇〇字詰原稿用紙五枚程度にまとめてください。それ以下でもかまいません。次号以降への掲載を企図しますが、紙幅の関係で繰り延べとなる場合があります。ご了承ください。

追悼・加藤多一の想い出



佐々木 孝一 (一九七四年卒)

私が社会人になりたての頃、加藤多一は札幌市の職員であった。半世紀ほど前に遡る。「馬を洗って」や「鳴らせ鳴らせ」など短編を書いてきた。そんな彼を公民館の講座に招いて、自作について語ってもらったのである。短く区切るような語り口で、膨張一途の札幌市で学校の新設を手掛けているとも語った。

翌年、「白いエプロン白いやぎ」で日本童話会賞を受賞する。市役所で会った先は広報課で、課長の席にあった。教養部で同級だった阿部裕昭君がすぐ前で仕事をしていた。

「北海道子どもの本の集い」(以下「集い」)の草創期で誘われて民話部会の提言者になった。集いの始まりの頃は、地域の文庫活動や図書館づくり運動の極盛期にあった。斉藤隆介について書いた私の卒論のことを知っていたらしい。

当時の集いは、東京周辺で地域文庫や親子文庫、図書館づくり運動などの担い手たちが、避暑がてら夏の北海道に来て、地域を啓蒙しようという色彩が濃厚で

あった。私の分科会で助言者の席にいた大川悦生は自著の新書の内容を延々と語った。定山溪に会場を移した分散会で、私はたまたらず場を後にした。直後、加藤多一に会った時、彼は「北海道のメンバーだけで集いをやる」といった。上から目線の親地連などの状況を感じ取っていたのかもしれない。まさしく「異議申し立ての文学者」(三浦幸司)の面目躍如であった。集いは半世紀の星霜を経て今に連続する。

加藤はその後「北海道の大地から発信する児童文学」を目指して、札幌市職員から大学の教壇を経て作家活動に専念する。稚内、剣淵、長沼など北海道の中心ではない地から発信をつづけた。

二〇二三年三月一日、童話研究会の生みの親のひとり、加藤多一が八八歳で永眠した。サークルと学部の後輩として、後ろから揺れながら歩いてきた私は、しばし放心状態になった。



▲ 150 周年バナー



▲教育学部前の案内標識

年会費納入のお願い

会員の皆さまには日頃から同窓会活動に深いご理解とご協力を賜り、心よりお礼申しあげます。

さて北海道大学教育学部同窓会の運営は、その財政基盤のほとんどを会員の皆さまの年会費に依存しております。円滑な同窓会活動を推進するため、年会費の納入にご協力くださいますようお願いいたします。同封の払込取扱票で郵便局の窓口またはATMで納入ください。手数料負担はありません。

なお次の銀行口座へ振り込みが可能です。この場合、振り込みに関する手数料等は振込者負担になりますので、ご了承ください。

- ・ 北海道銀行 南一条支店
- 普通貯金 一〇七三九九七
- 北大教育学部同窓会
- 事務局代表 佐々木孝一
- ・ ゆうちよ銀行 二七九(ニナナキユウ)店
- 当座 〇〇〇四三二九
- 北大教育学部同窓会 代表 佐々木孝一

お願いとご注意

ゆうちよ銀行(郵便局)の会費等納入で「同窓会報」同封の払込用紙使用の場合、従来は払込者の料金負担はありませんでした。ところが、二〇二二年一月九日から一部有料となりました。

- ATMから通帳またはカードを使用の場合 ↓ 無料
- ATMから現金払い ↓ 有料
- 窓口で現金払い ↓ 有料

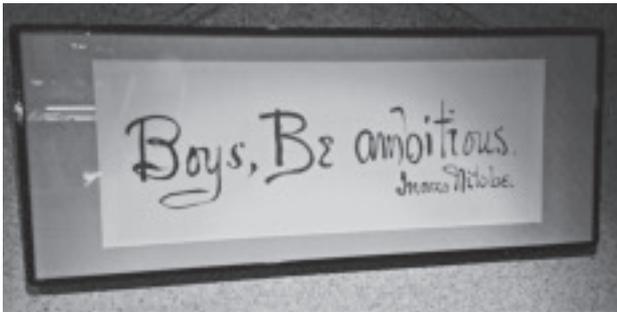
会務報告(2023 年度)

2023 年 6 月 13 日
 北海道大学校友会エルム総会
 佐々木(代議員)参加、理事の竹田会長は欠席

2023 年 8 月 31 日
 「同窓会だより第 41 号」の発行配布
 会費納入および総会出欠(近況報告)用ハガキ同封

2023 年 9 月 30 日
 北海道大学教育学部同窓会総会
 文系共同講義棟(軍艦講堂)で開催
 決算および予算を承認、新会長に宮崎隆志氏を選出、
 会員 15 名参加
 来賓として横井敏郎学院長/学部長、柚木孝敬教授
 (社会連携委員長)が臨席
 丸山美貴子氏(社会連携委員)、崎田義寛氏が参加
 同時開催：全学行事「北海道大学ホームカミング
 デー 2023」
 同時開催：文系四学部合同企画講演会～桜木志乃氏

2023 年 10 月 17 日
 竹田正直前会長の葬儀
 須田力副会長、佐々木幹事長参列



▲百年記念館の展示(新渡戸稲造氏揮毫)

2023 年 12 月 24 日 オンライン会議
 教育学部/学院との意見交換会
 横井学部/学院長、柚木社会連携委員長、宮崎会長、
 佐々木幹事長、和田幹事

2024 年 3 月 25 日
 2023 年(令和 5 年)度教育学部・教育学院学位記授与式
 「同窓会だより第 41 号」と同窓会入会案内を配布
 宮崎会長、佐々木幹事長、和田幹事が臨席

2024 年 3 月 25 日
 教育貢献賞の授与
 松田直祥さん、苫米地里香さんへ宮崎会長から授与

2024 年 3 月 25 日
 学年幹事の委嘱
 遠藤天さんと深海貴之さんに委嘱

2022 年度会計監査
 2023 年 9 月 14 日 高山会計幹事により実施

会則改訂委員会
 2023 年 12 月 8 日
 2024 年 1 月 19 日(杉浦正人会員参加)
 2024 年 3 月 25 日
 宮崎会長ほか佐々木、和田、後藤、高山の各委員が
 出席

事務担当幹事打合せ
 2023 年 7 月 17 日/2023 年 8 月 15 日
 2023 年 8 月 23 日/2023 年 9 月 14 日
 2023 年 11 月 25 日/2023 年 12 月 8 日
 2024 年 1 月 19 日/2024 年 3 月 25 日

厚く御礼申し上げます

二〇二三年度に同窓会支援金、教育貢献賞寄付金等、年会費を超えて送金された方々です。(敬称略)
 心より御礼申し上げます。
 諸物価の高騰が著しく、郵便料金の値上げも予定されています。引続いでのご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

●二〇二三年四月～

二〇二四年三月

井上 弘子

田村恵以子

(二〇〇〇年修士修了)

(一九九五年修士修了)

菅原 晶博(一九七九年卒)

小野 義拓(一九五九年卒)

小島 忍(一九五六年卒)

徳勢 正昭(一九六五年卒)

岡田 杜音(二〇二〇年卒)

大西由美子(一九七〇年卒)

志田 裕子(一九九二年卒)

田辺 速夫(一九七一年卒)

須田 力(一九六六年卒)

安達 輝政(一九七九年卒)

伏木田政義(一九六九年卒)

前田 泰博(一九六二年卒)

遠藤知恵子

吉田 敏博(一九七二年卒)

(一九九四年博士修了)

生野 将人(一九八八年卒)

山本 哲二

生野 寿恵(一九九〇年卒)

(一九七四年修士修了)

浅田 正典(一九七九年卒)

橘内 哲也(一九五五年卒)

浅田 初美(一九八〇年卒)

小野塚恒男(一九七八年卒)

月館 修(一九七〇年卒)

佐藤 順吉(一九七五年卒)

伊藤 勇(一九六五年卒)

高橋 英一(二〇〇一年卒)

濱田 一康(一九七七年卒)

布上 恭子

丹下 雄二(一九八五年卒)

(二〇〇三年修士修了)

亀貝 一義(一九六〇年卒)

秋元 義禮(一九七三年卒)

長野 智子(一九九〇年卒)

武田 光弘(一九六〇年卒)

大居 健二(一九五七年卒)

井上 蓉子(一九六二年卒)

田尾 直之(一九六一年卒)

高橋 道裕(一九八四年卒)

柳谷 憲治(一九九七年卒)

武田 春人(一九七五年卒)

田口 昇治(一九六八年卒)

2023 年度(2023.4~2024.3)決算書

一般会計

収入	予算額(円)	決算額(円)	差	説明
繰越金	1,104,030	1,104,030	0	
会費	430,000	424,000	△ 6,000	212 名
過年度分会費	10,000	34,000	24,000	10 名
同窓会支援金	100,000	266,000	166,000	61 名
会費外収入	50,000	58,000	8,000	「全学校友会エルム」48,000 円、会報広告料ほか 10,000 円
特別会計負担金	7,965	10,000	2,035	払込手数料(按分)／事務費の一部
雑収入	5	2	△ 3	預金利息等
合計①	1,702,000	1,896,032	194,032	

支出	予算額(円)	決算額(円)	差	説明
会報等発行経費	510,000	509,120	880	会報 2 千部・発行手数料ほか
振込手数料／通知料	30,000	33,441	△ 3,441	会費納入時発生
料金後納払い	10,000	8,798	1,202	近況連絡等のはがき
通信連絡費	35,000	29,689	5,311	郵送料
卒業式協力費	15,000	5,000	10,000	卓花
会費	6,000	3,000	3,000	関西エルム会
事務局活動費	25,000	33,580	△ 8,580	事務局／会則改訂小委員会等費用弁償
消耗品費	6,000	20,548	△ 14,548	
印刷費	8,000	1,360	6,640	コピー等
予備費	21,000	10,000	11,000	前会長香典
合計②	666,000	654,536	11,464	

①-②	1,036,000	1,237,496	201,496	次年度繰越金
-----	-----------	-----------	---------	--------

特別会計

収入	予算額(円)	決算額(円)	差	説明
繰越金	360,758	360,758	0	
基金収入	100,000	160,000	60,000	44 名ー 80 口
合計③	460,758	520,758	60,000	

支出	予算額(円)	決算額(円)	差	説明
教育貢献賞賞状	35,000	35,200	△ 200	2 名／表彰状
教育貢献賞副賞	40,000	40,000	0	図書券 2 万円 * 2 名
手数料	0	440	△ 440	料金払込み銀行手数料
負担金	13,475	10,000	3,745	振込手数料～会費納入時発生／一般会計と按分
合計④	88,475	85,640	2,835	

③-④	372,283	435,118	62,835	次年度繰越金
-----	---------	---------	--------	--------

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 森 範行 (一九七九年修士修了) | 原 直美 (一九九三年卒) |
| 千葉 一興 (一九九六年卒) | 古口 真澄 (二〇〇〇年卒) |
| 高橋 正和 (一九八一年卒) | 逸見 勝亮 (一九六九年修士修了) |
| 齋藤真姫子 (一九八六年卒) | 近藤 功 (一九六五年卒) |
| 柴田 麻里 (一九九四年卒) | 渡辺 有賢 (一九八一年修士修了) |
| 林 孝幸 (一九九一年卒) | 廣山 葉月 (二〇一八年卒) |
| 後藤 隆之 (一九七五年卒) | 永田 知子 (一九九五年卒) |
| 成澤 優 (一九六九年卒) | 中澤 壮王 (二〇一九年卒) |
| 奥寺 雅道 (一九七七年卒) | 笹瀬 雅史 (一九八九年修士修了) |
| 後藤 弘 (一九六一年卒) | 鈴木 泰 (一九七一年卒) |
| 国吉 昌晴 (一九六六年卒) | 宮本 圭輔 (一九七七年卒) |
| 坂本ひろみ (一九九一年卒) | 竹下 忠彦 (一九八二年卒) |
| 和田 昇 (一九八三年卒) | 木村 奈緒 (一九九一年卒) |
| 高山 幸一 (一九七四年卒) | 宮崎 隆志 (一九八四年修士修了) |
| 市川 剛章 (二〇一一年卒) | 松田 康子 (一九七六年卒) |
| 犬童いづみ (一九八〇年卒) | 三上 悦子 (一九七六年卒) |
| 笠井 淳一 (一九六二年卒) | |
| 村田 仁海 (一九六八年卒) | |
| 坂本 仁彦 (一九七〇年卒) | |
| 小松 典子 (一九八二年卒) | |
| 内山多賀子 (一九八三年卒) | |
| 吉田 敏雄 (一九五六年卒) | |
| 佐々木孝一 (一九七四年卒) | |
| 阿部 剛康 (一九九一年卒) | |
| 鈴木里律子 (一九七八年卒) | |
| 奥見 花 (一九九八年卒) | |
| 長峯 憲二 (一九六〇年卒) | |
| 草薙恵美子 (二〇二二年卒) | |
| 鷺見 功 (一九七〇年卒) | |
| 匿名 | |
| 渡辺 明日香 (二〇〇六年博士修了) | |
| 木村 智子 (一九九九年卒) | |
| 真嶋 七葉 (一九八〇年卒) | |
- ※学部卒と大学院修了の双方がある場合は最終の年度を記載
- 〈お詫び〉
前号で卒業年次の誤りがありました。訂正してお詫びいたします。
内山多賀子 (一九八三年卒)
※ご芳名・卒業修了年次等誤りがある場合は事務局まで連絡をお願いします

北海道大学校友会エルム

北海道大学関係者の皆様のご登録をお待ちしております

※平成28年6月1日以前に基礎同窓会に加入されている方は会費不要です。



北海道大学関係者みなさんがご入会いただけます。

会員登録は以下URLからフォームにアクセス



<https://www.alumni-hokudai.jp/>

会員登録 をクリック!



会員登録が簡単になりました!

「お名前」「メールアドレス」「電話番号」
「入学 or 卒業 or 所属情報」のみでOK

郵送でのお申し込みをご希望の方は事務用までご連絡ください



北海道大学校友会エルム
HOKKAIDO UNIVERSITY ALUMNI ASSOCIATION ELM

北海道大学校友会エルム
電話：011-706-2101
kouyukai@general.hokudai.ac.jp

令和六年度 北海道大学教育学部同窓会総会

日時：2024 (令和六) 年 9 月 28 日 (土)

16:30

会場：人文・社会科学総合教育研究棟

(軍艦講堂)

同封のはがきで連絡して下さい

(当日参加も可ですが、中止等の場合でも連絡できません)

※左記のメールアドレスを活用できます

sa-kaui0826@outlook.jp

対面での開催を予定していますが、感染症の拡大などの状況によっては書面審査に変更される場合があります。

編集後記

竹田前会長のご逝去により、宮崎新同窓会長へバトンが手渡されました。

早速、会則の見直しを開始し、新会則案も作成され、われらの同窓会が、「未来を語る場」との新たな想いで育っていくことを切に願っています。

本年バリ五輪が開催され、日本の団体競技のチームもメダルを獲得する活躍を見せています。メダルを獲得した選手のインタビューを聴いていると、必ず、コーチやサポーターや応援してくれた皆さんへの「感謝」の言葉が出てきます。結果を出す組織に必ず定着してい

る文化ではないでしょうか。「一流」：「一つの流れ」を創れた時、その組織は活性化し成果を生み出します。

新会則による同窓会は、教育学部で学んだ者たちが、未来を見つめながら交流できる場となるべく、皆さまのご支援と積極的なご参加をお待ちしております。

最後に、42号発刊にあたりご寄稿くださった、辻智子学部長様、宮崎隆志会長、逸見勝亮様、杉藤洋志様、香川友歩様、深海貴之様、佐々木孝一様、短信を寄せていただいた皆さまに心から感謝を申し上げます。本号をお届けいたします。(の)